

トウムル・ナムジム氏

- モスクワ大学大学院経済学博士課程修了（1975年1月）
 - モンゴル生産力研究所所長（1975年～82年）
 - 国家計画経済委員会副議長、経済研究所所長（1982年～85年）
 - モンゴル国務大臣、国家計画経済委員会第一副議長（1985年～90年）
 - モンゴル外務省政策計画局長（1990年～91年）
 - 大阪外国語大学客員教授（1991年～95年）
 - 専門分野 中央アジア・ロシア極東地域論
- 現在、滋賀県立大学 人間文化学部教授



■日本に来られて何年になるんでしょうか？

8年ですね。ここに来る前に大阪外大で3年間、ここには滋賀県立大が出来た当初からなので5年です。

■日本に来られることになったきっかけは？

3年の期限で大阪外大の客員教授として来日。その期間の終わりに、滋賀県立大が足りましたので、こちらに移って来たんです。

■先生のご専門は、何でしょうか。

中央アジア、極東シベリアを中心にした地域研究です。ここではロシア語の授業も担当しています。

■日本について特に研究されていた訳ではなかったんですね。

日本の経済企画庁に当たる国家経済企画省というのがモンゴルにあるんですが、1988年にその大臣をやっていたんです。その仕事の関係で日本に来ました。

■来日前は日本についてどのようなイメージをお持ちでしたか。

向こうは社会主義体制で交流はなかったんですが、日本は「経済とか、科学技術が非常に発展している国」というイメージでした。

■モンゴルの相撲というのは日本でもよく知られており、またモンゴルから力士もこれられていますか…。文化面では、日本にどのようなイメージを持たれていましたか。

情報は非常に少なかったんですが、相撲に関するニュースは時々聞いていました。99年に日本についての紹介をモンゴル人に向けてまとめたんですけど、その中で日本の相撲についても紹介したんです。というのは、自分も興味があるし、モンゴル人たちも興味を持っているので紹介したんです。今ではモンゴルにいて日本の相撲を直接NHKで見ることができるようになりました。それに、相撲以外にも日本の色々な情報がたくさん入ってきています。

■8年間、日本で生まれ、大学で教えられて、イメージが変わったこと等がありましたら、お聞かせください。

まず、日本人は非常に勤勉であるということです。それから、社会主義の時代には、私たちはもっぱら「社会保障を整備しよう」と頑張ってきたんです。ところが日本に来て、資本主義の国なのに生活水準が非常に高く、保障もかなり高水準なのは驚きました。

■日本は今子どもたちの犯罪というのが増えてきているんですが、学生といつも接しておられて何か感じられることがありますか。

実質的に生活水準も高いけど、ご指摘の通り子どもの教育問題や、子どもがおかれている状況が大変だということもニュースを見て知っています。未来を創っていくのは子どもなので、

未来がどうなるかっていうことを心配もし注目もしています。

■モンゴルの若者たちと日本の若者たちとは、違いを感じられますか？

はっきり大きな違いがあります。モンゴルでは遊牧を基盤にしており、昔から家族の絆が非常に強くて親の目の届くところで子どもは育てているし、仕事も手伝います。ただ最近、ウランバートルを中心に都市化が進み、都市には日本にいるような若者が出てきています。基本的には、生活基盤の違いもあるけど、モンゴルの青年たちのほうが我慢強いんです。しかし、モンゴルでも実生活の中で伝統的な教育というのが崩れかけています。

■伝統的な教育というのは。

家庭の中での躾ですね。例えば、親の前では酒を飲まない。そういう礼儀作法は家庭で教えるんです。そういうところから我慢も学ぶのです。それが都市部では、崩れてきているんです。

■今、日本の大学で教えておられて、学生に伝えたいメッセージが何かあるかと思うんですが……

アジアの中にはモンゴル、その他いろいろな国がありますが、特に若い人たちは、そういう国の若者たちと積極的に、直接的に交流し、いろんなものを学んでいって欲しい…。日本は同じアジアにあっても、科学技術だけでなく、文化の面でも、精神文化の上でもレベルが高いんです。でも、同じアジアの、例えば、モンゴルにも「誇れる部分が多々ある」というような交流をし合えば、きっとプラスになるんです。できるだけそういう交流の仕方をするように学生たちを励まして、勤めていきたいと思っています。

■日本人もアジアの一員という意識を持たなくてはいけないし、お互いの文化を尊重しあう関係ができるといいですね。

これからの抱負といいますか、活動の目標をお聞かせください。

今まで以上に地域に出かけて人々の具体的な生活を細かく知り、人々の生活の真髄というか核の部分に触れていければと思っています。実際に農業や漁業をやっている人たちが朝から晩まで「どういうふうに働き」、その人たちが「何を考えているのか」、そういうところまで触れるような調査や研究をやりたいと思っています。

■日本の都市に住んでいる人の多くは、そういった生活が分からないんです。ぜひ、日本人に対しても「先生の目からみられた日本」を発信していただきたいですね。よろしくお願いします。